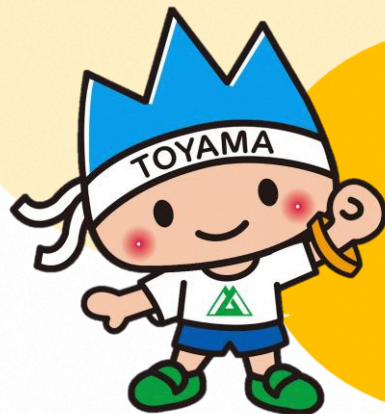


家族で知ろう

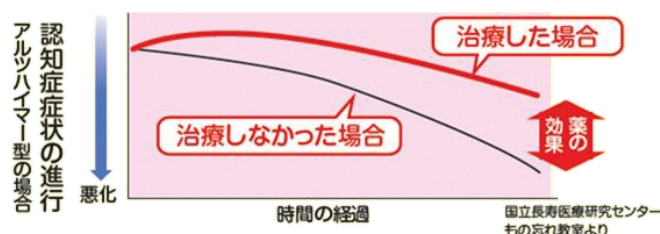
認知症のこと

認知症になる可能性は誰にでもあります。
正しく理解し、早期に気づき、適切な
支援や治療につなぐことが大切です。



早期診断によるメリット

- ☐ 治る病気や一時的な症状の場合がある
- ☐ 進行を遅らせることができる
- ☐ 今後の生活の準備ができる



「認知症によるもの忘れ」と 「加齢によるもの忘れ」の違い

認知症によるもの忘れ	加齢によるもの忘れ
体験をすべて忘れる	体験の一部を忘れる
もの忘れを自覚できない	もの忘れを自覚している
人格が変化する	人格に大きな変化はない
人や場所が分からなくなる	人物や場所がわからなくなるようなことはない
日常生活に支障をきたし 介護が必要になる	日常生活に支障はない

困った時・不安な時の相談機関

地域包括支援センター

高齢者の方の介護や福祉、医療などの相談に応じる総合相談窓口です。

富山県HP「地域包括支援センターリンク集」

<https://www.pref.toyama.jp/1211/kurashi/kenkou/kourei/20230127.html>

最寄りのセンターはこちらから⇒



認知症疾患医療センター

認知症に関して専門相談・診断等を行う専門医療機関です。

にいかわ認知症疾患医療センター

☎ 0765-22-3399 月～金曜日 9:00～16:00
土曜日 9:00～11:00

谷野呉山病院認知症疾患医療センター

☎ 076-436-2324 月～金曜日 9:00～17:00

高岡市民病院認知症疾患医療センター

☎ 0766-23-0204 月～金曜日 9:00～17:00

北陸病院認知症疾患医療センター

☎ 0763-62-1950 月～金曜日 9:00～16:00

富山県若年性認知症相談・支援センター

若年性認知症に関する相談受付やご本人・ご家族等への支援を行っています。

☎ 076-432-7501 月～金曜日 9:00～16:30

「新しい認知症観」とは？

認知症になったら何もできなくなるのではなく、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。



みんなで「新しい認知症観」に立ち、共生社会を目指しましょう

難聴も**認知症**のリスクの一因

「聞こえにくさ」 感じていませんか？

65歳を超えると、聞こえにくさを感じる人が急激に増え、

75歳以上では約半数の方が聞こえにくさを感じていると言われています。

難聴になるとこんな影響が・・・

1. 認知機能に
影響をもたらす
可能性がある

2. 危険察知能力が
低下する



3. 社会的に孤立し
うつ状態に
陥ることがある

4. 周囲との交流が
うまくいなくなる

5. 自信がなくなる

予防・対策はどうしたらいい？

日々の意識で「聞こえ」の老化を遅らせましょう。

● 大きな音を避け、耳を守る

● 聴力検査など、定期的な聴力のチェック

● 生活習慣の見直し

● 補聴器の適切な使用

聞こえチェックリスト

簡単にチェックしてみましょう

- ☐ 話し声がはっきりと聞き取れず、聞き間違えたり聞き返したりすることがある
- ☐ 話し声が大きいと言われる
- ☐ 家族からテレビやラジオの音量が大きいと指摘される
- ☐ 集会や会議など数人での会話がうまく聞き取れない
- ☐ 電子レンジの音やドアのチャイムの音が聞こえにくい
- ☐ 「ワーン」「キーン」などの音が耳で鳴っている状態が1日以上続く
- ☐ 後ろから呼びかけられると気づかないことがある
- ☐ 車の接近に全く気がつかないことがある
- ☐ 音の方向感がわかりにくくなる
- ☐ 耳が詰まったような感覚が抜けない



これらの項目が当てはまる方は**耳鼻咽喉科を受診**してみましょう。

お近くの耳鼻咽喉科はこちらから

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会 / 補聴器相談医名簿

